

製品名: カルパイン 9 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07868**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	75kDa

抗原情報

遺伝子名	CAPN9
別名	CAPN9; NCL4; Calpain-9; Digestive tract-specific calpain; New calpain 4; nCL-4; Protein CG36
遺伝子 ID	10753.0
SwissProt ID	O14815
免疫原	抗血清はヒト CAPN9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 481-530

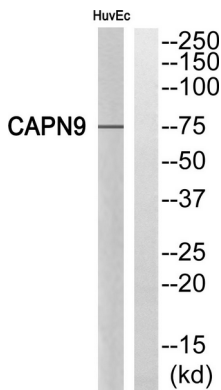
背景

カルパインは、カルシウム依存性システインプロテアーゼの普遍的でよく保存されたファミリーです。カルパインタンパク質は、不変の小サブユニットと可変の大サブユニットからなるヘテロ二量体です。大サブユニットはシステインプロテアーゼドメインを有

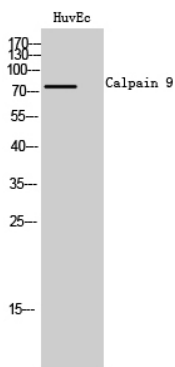
し、両方のサブユニットはカルシウム結合ドメインを有します。カルパインは、カルシウム流入と酸化ストレスによって活性化されることから、神経変性プロセスへの関与が示唆されています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、主に胃と小腸で発現しており、消化管において特殊な機能を有する可能性があります。この遺伝子は胃癌と関連していると考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションがみつかっています。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: 広範なエンドペプチダーゼ特異性。 ,機能: カルシウム調節性非リソソーム性チオールプロテアーゼ。 ,誘導: 胃癌組織および分化型および低分化型の胃細胞株でダウンレギュレーションされている。 ,類似性: ペプチダーゼ C2 ファミリーに属する。 ,類似性: 1つのカルパイン触媒ドメインを含む。 ,類似性: 3つのEFハンドドメインを含む。 ,組織特異性: 主に胃で発現する。 ,

研究分野

画像データ



CAPN9 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは CAPN9 ペプチドでブロッキングされている。



カルパイン 9 ポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析